



市民のみなさんと市長が直接対話 まちづくり懇談会

市では、市民が主役のまちづくりを目指して、昨年度から、市民のみなさんと市長が直接対話する「まちづくり懇談会」を住民自治組織と協働で開催しています。10月開催の荘野地区でいただいたご意見の一部をご紹介します。

10/26開催
荘野協働のまちづくり
ネットワーク

荘野の史跡整備など

荘野地区は、横大道古墳や木村城など、歴史ある地区だが、住民には認識されていない面もある。行政と共に、周知に取り組んでいきたい。また、木村城は、県の史跡になっているので、木の幹の太さが5センチメートル以上の木は切つてはいけないと聞いた。山城の輪郭がきれいに見えるよう、整備に協力してほしい。

答

荘野地区は歴史資源がたくさんあり、これまで郷土の貴重な文化財を保護・活用さらに整備していただいていることに感謝しています。また、「再現しよう！ 神田の町並み」といった歴史的な取り組みをされており、市も支援していきたいと考えています。

木村城の立木の伐採については、所有者の許可と県への届出が必要ですが、5センチメートルとの制約はないと思

荘野協働のまちづくりネットワーク

会長 種村 文朗さん



まちづくり懇談会を終えて……

今日は、地域に住むたくさんの人が来られ、まちづくりに対する関心の高さが分かってよかったです。これからは物ではなく人のつながりやコミュニティを大切にしながら、地域にあるものを見直していきたいです。

提案した項目の実現に向けて市と協力していきたいと思っています。

います。伐採を希望されるエリアと伐採方法の詳細について、協議しながら進めていきたいと思っています。

定年後帰って住みたい

荘野づくりに向けて

荘野地区は交通の便なども良く、生活環境は恵まれている地域と考えているが、一方で若年層の転出も多く、今後は、空き家や休耕田が増えていくことも予想される。

定年退職者が荘野へ帰ってくれば、地域に活気が出ると考える。Uターン者に対して、空き家や実家の増改築の補助制度を充実させ、利用しやすいようにしてほしい。

答

また、市が、休耕田や空き家を一度借り上げ、市民へ貸すという方法ができれば、貸す方も安心して貸すことができるのではないか。

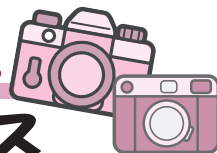
農地・休耕田の活用については、農地の集積をどのように図っていくかという部分も含め、様々な機関連携して、検討していきたいと思っています。

市が家屋の賃借を仲介すること、宅建法に抵触するということもあります。しかし、仲介ではなく、情報提供という方法で、市と業者、個人の間を整理している市町もあります。

市としては、空き家バンクへの情報提供を求め、宅建業者の仲介のもと、それらの情報を発信するというシステムを設けており、こちらを充実していく必要があります。

また、空き家や実家の増改築については、国や県の補助制度の活用も含めて研究していきたいと思っています。





風光明媚な港で 海の幸を満喫

11月25日、忠海港で、いっぺんきん祭みなどオアシスただのうみが開催されました。風光明媚な海と島、山並みを背景に、たい飯、たこ天などの忠海産品の販売や、クルージング、太鼓演奏などが行われ、多くの来場者でにぎわいました。



可愛い妖怪 大集合！

11月27日、忠海東小学校で、次代を担う子どもの文化芸術体験事業の一環として、(有)ひとみ座による人形劇「ゲゲの鬼太郎」が行われました。

児童達は、自作の妖怪の人形を使って、劇団員と共に演技を披露。児童からは、「劇団の人が仲良くしてくれて楽しかった。」「悪い妖怪を倒すところが面白かった」といった感想が聞かれました。また、6年生の吉田竜くんが「舞台芸術に触れ、人形劇の良さや楽しさを実感した。」と、劇団員へのお礼の言葉を述べると、会場は温かい雰囲気になりました。

健康づくりを通して 世代間交流

11月28日、賀茂川中学校で、生徒と地域の60歳以上の人との交流試合が行われ、男子はスローピッチソフトボール、女子はバレーボールで交流を深めました。元気いっぱいの声といきいきとした表情が印象的でした。



改めて知る「食」の大切さ

11月27日、市民館で、食育講演会が行われ、医学博士の服部幸應さんが、自身の経験や知識をふまえて「食」の大切さについて語りました。「食育は、人づくり。一人ひとりが変われば、まちも変わる」という服部さんの言葉が印象的でした。



楽しく学ぼう バスの乗り方

11月29日、東野小学校で、バスの乗り方・バリアフリー教室が開催され、東野小学校3、4年生の児童が、乗車体験や安全教室などを通じて、バスの乗り方について学びました。高齢者擬似体験では、高齢者の気持ちを肌で体感。また、バリアフリーバスには、驚きの声があがっていました。



町並み保存地区 選定 30周年

12月2日、大広苑で、竹原市竹原地区重要伝統的建造物群保存地区選定30周年記念事業が行われ、地域の人や町並みに関心がある人など、約200人が参加しました。町並み保存地区の魅力や、空き家再生についての講演と、竹原小学校6年生の児童による音楽劇「竹原塩物語」が上演されました。劇中の迫力ある大合唱に、多くの人が惹きつけられました。

先人達から託された、町並み保存地区。保存・活用し、次世代に継承していくことが、私達の務めです。